

東奥信用金庫

地域内企業の業況レポート
No. 122
2023年7～9月期

本レポートは、情報提供のみを目的とした当金庫の意見です。

当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データなどに基づいてこの資料は作成されていますが、この情報の正確性および完全性について当金庫が保証するものではありません。

〒036-8182 弘前市大字土手町81
TEL 0172-33-8404 業務部 -2023.10.31-
HP <http://www.shinkin.co.jp/toshin/>

《今回調査のポイント》

● 7～9月期（今期）業況判断DI値 横ばいで推移

7～9月期の業況判断DI値は、前回調査比0.3ポイント低下の2.8とやや低下し、前回予想値(2.4)に対しては0.4ポイント上回る結果となった。項目別では、売上・受注で8.9ポイント低下の9.3、売上数量が11.7ポイント低下の6.2、利益でも9.7ポイント低下の▲5.2と全項目でやや低下となった。

前期、新型コロナウイルス感染症が5類に分類された影響により日常生活が大きく変化し、各業種とも業況は大幅に改善されDI値はプラスに転じた。今期も、夏祭りや各種イベントがフル開催となり、業況は良好に推移しているものの、エネルギー価格や原材料・仕入価格の高騰が続いていること、利益確保については各企業とも厳しい状況となっている。



業況お天気図

● 10～12月期（来期）各項目別DI値 横ばいを見込む

10～12月期の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.4ポイント低下の2.4とやや低下の予想となった。項目別では、売上・受注で2.4ポイント低下の6.9、売上数量が4.8ポイント低下の1.4、利益では3.1ポイント上昇の▲2.1と総体的にやや低下傾向であるが、利益はやや改善となった。

飲食業を主体に業況は改善されている一方で、前回同様に「エネルギー価格の高騰」や「原材料・仕入価格のさらなる高騰」が継続していることから、各業種とも厳しい見通しとなった。年末に向け好材料もあるが、各企業とも経費の削減・効率化等による利益確保が課題となっている。また、業況の回復に伴い「人材不足」を懸念する業種もあり、前回調査時に比較しても「人材不足」をあげた企業が多くなっている。



業況予想お天気図



お天気図



(お天気図は、景気指標を総合的に判断して作成したものです。)

全業種総合

回答企業数291企業（回答率100.00%）

概況

～総合的業況判断DI値 前期比横ばいで推移～

総合的業況判断DI値は、前期比0.3ポイント低下の2.8となった。

業種別での業況判断DI値は、飲食業が15.8ポイント上昇の63.2、サービス業は横ばいで11.9、建設業が12.0ポイント上昇の1.7となった。一方で製造業が3.0ポイント低下の0.0、小売業が2.2ポイント低下の▲5.5、運輸業が20.0ポイント低下の▲10.0、卸売業が10.4ポイント低下の▲10.4、不動産業が33.3ポイント低下の▲11.1となった。

飲食業、建設業が改善したものの、7業種については横ばいやや、やや悪化・悪化となった。

～経営上の問題点～

業種全体で「材料価格の上昇」104先、「人員不足」88先、「売上の低迷・減少」86先、「利幅の縮小」72先、「経費の増加」69先と上位を占めた。

前回調査比、「材料価格の上昇」2先減少、「人員不足」が4先増加、「売上の低迷・減少」は同数、「利幅の縮小」14先減少、「経費の増加」5先減少となった。

設備投資計画では、「予定あり」とした企業が37先、前期比7先減少、設備投資実施予定期割合は12.7%と前期比2.6%減少した。業種別では、運輸業（土地・建物）40.0%、製造業（土地・建物・機械・その他）24.2%、サービス業（建物・機械・その他）16.7%、不動産業11.1%（土地）小売業（建物・機械・その他）11.0%、卸売業（建物・機械・その他）10.3%、飲食業（建物）5.3%、建設業（建物・機械）5.2%となった。

資金繰りDI値は、前回調査比0.6%低下の▲5.8と横ばい、今期借入した企業は17.5%と前回調査時(14.8%)より2.7%増加となった。

来期の見通し

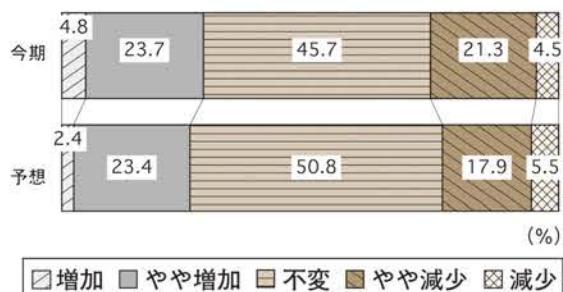
～総合的業況判断DI値 横ばいの見通し～

各業種の見通し業況判断DI値は、今回調査比0.0ポイントの2.4と横ばいの予想となった。

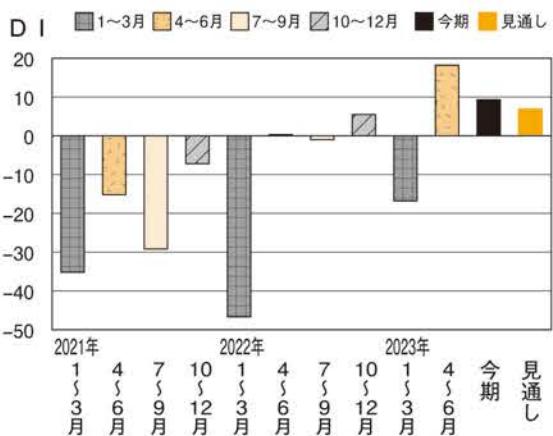
業種別では、運輸業が40.0ポイント上昇の30.0、飲食業が42.1ポイント低下の21.1、サービス業が2.4ポイント上昇の14.3、製造業が12.1ポイント上昇の12.1、建設業が8.6ポイント上昇の10.3、卸売業は10.4ポイント上昇の0.0、小売業は9.9ポイント低下の▲15.4、不動産業も11.1ポイント低下の22.2と、来期の見通しは上昇が5業種、低下が3業種となった。

今期資金手当した先が17.5%であったが、今後資金手当等借入を予定している先は16.9%となっている。

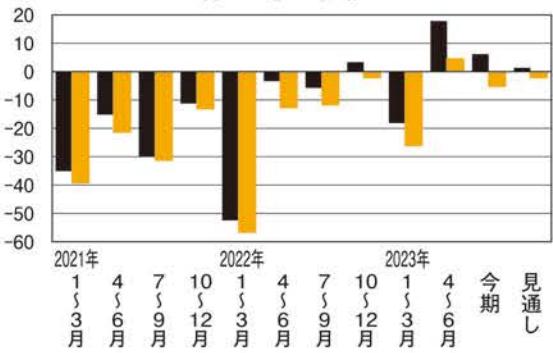
業況判断（全業種）



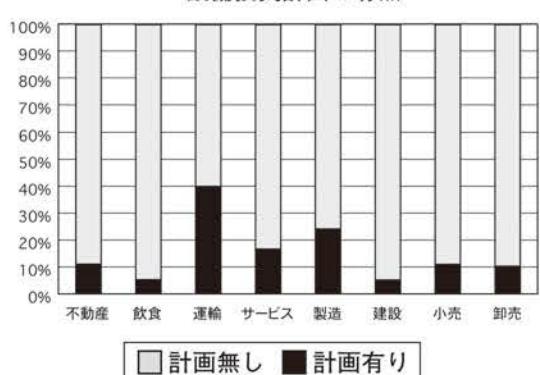
売上・受注DI値の推移



各DI値の推移



設備投資計画の有無



卸売業

回答企業29企業

概況

～業況判断DI値 やや悪化～

今期の業況判断DI値は、前回調査比10.4ポイント低下の▲10.4と悪化し、前回調査予想値(0.0)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で34.5ポイント低下の▲27.6、売上数量が37.9ポイント低下の▲31.0、利益でも24.2ポイント低下の▲20.7と全項目で悪化となった。

今期は、りんご卸売業の業況が落込む時期となる事からDI値に影響した。

分野別の状況

～総合的業況は改善で推移～

酒類等卸売業は、ねぶた祭り・各イベントの開催や記録的な猛暑の影響から売上増加となった。

食料品卸売業は、売上高はやや増加となったが、仕入価格や経費の増加により、利益圧迫し業況はやや悪化となった。

衣料品卸売業は、前期に比べると販売数量は増加したものの原材料の価格の高騰から利益は横ばいに推移した。

建設・建設資材卸売業は、仕入価格上昇するが、価格転嫁により売上は増加したが、利益は横ばいで推移。

業種間格差もあるもののアフターコロナの動きが活発となり、総合的な業況は改善傾向にある。但し、「材料・仕入価格上昇」「経費の増加」「人員不足」など不安定な材料も多く今後の動きを注視している。



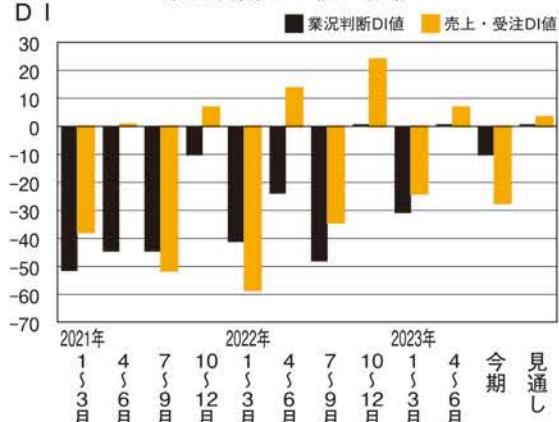
来期の見通し

～業況判断DI値 やや改善の見通し～

来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比10.4ポイント上昇の0.0と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で31.1ポイント上昇の3.5、売上数量も24.1ポイント上昇の▲6.9、利益では17.2ポイント上昇の▲3.5と全項目でやや改善の見込みとなった。

来期については、りんご卸売業やタイヤ販売が活発になり、年末を迎える期待感からやや改善の見通し。

業況判断DI値の推移



小売業

回答企業91企業

概況

～業況判断DI値改善～



今期の業況判断DI値は、前回調査比2.2ポイント低下の▲5.5、前回調査予想値(▲4.4)を下回る結果となった。項目別では、売上・受注で5.5ポイント上昇の7.7、売上数量が3.3ポイント上昇の4.4、利益では2.2ポイント低下の▲7.7となり売上高・数量は改善となったが、利益はやや悪化となった。

小売業においては、売上は改善となるが仕入価格・原材料価格の高騰により利益確保に苦戦している。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

酒類小売業は、ねぶた祭りやお盆等イベントが多く売上は増加。

食料・食品小売業も売上は増加したが、ケーキ・和菓子などは猛暑の影響もあり売上は低迷した。

自動車販売は徐々に新車の納車量が改善し、堅調に推移した。

燃料等小売業は、原油価格高騰により仕入価格が上昇、価格転嫁は図られているが、顧客の買い控えが見られ販売数量は低下している。

コンビニにおいては、ねぶた祭りや猛暑の影響から来店客が増加し、今期も好調に推移した。

来期の見通し

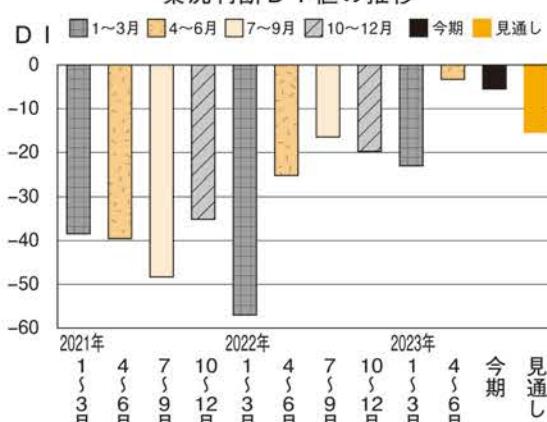
～業況判断DI値 やや悪化の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比9.9ポイント低下し▲15.4の見通しである。項目別では、売上・受注で12.1ポイント低下の▲4.4、売上数量が15.4ポイント低下の▲11.0、利益は9.9ポイント低下の▲17.6となった。

年末や各種イベント開催に対する期待感もあるが、来期についても、仕入価格のさらなる高騰が予想され、価格転嫁に苦慮する業種も多く、やや悪化する見込みとなった。

業況判断DI値の推移



建設業

回答企業58企業

概況

～業況判断DI値 やや改善傾向～



今期の業況判断DI値は、前回調査比12.0ポイント上昇の1.7と改善、前回調査予想値(▲1.7)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で8.6ポイント低下の6.9、売上数量が15.5ポイント低下の1.7、利益でも5.2ポイント低下の▲13.8と業況判断DIはやや改善したが、項目別では悪化となった。

公共工事の受注は例年並みに推移。一般住宅については資材高騰の影響から、見込んでいた単価と合わせ工事の変更、延期、キャンセル等が発生している。

分野別の状況

～総合的業況はやや改善で推移～

一般住宅の新築受注についてはやや減少傾向にあるが、リフォームは堅調に推移。
土木工事業は、公共工事を主体に好調に推移。
管工事業は、公共工事・一般工事とも好調に推移。
電気工事業は、受注安定推移となった。
各業種とも猛暑が続いた事により作業効率が悪化し利益にも多少の影響があった。

来期の見通し

～業況判断DI値 全項目でやや改善の見通し～

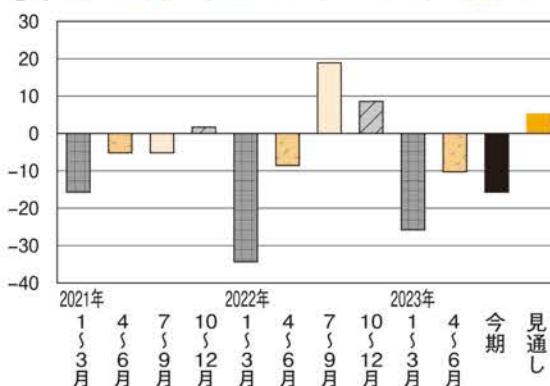


来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比8.6ポイント上昇の10.3と改善の見通しである。項目別では、売上・受注で1.7ポイント上昇の8.6、売上数量が0.0ポイントの1.7、利益は19.0ポイントの上昇で5.2となった。

業者間格差もあるが、やや改善での推移を見込んでいる。資材の高騰影響による利益の確保、人材不足による受注調整など各企業とも対応に苦慮している。

業況判断DI値の推移

D I ■ 1~3月 □ 4~6月 □ 7~9月 □ 10~12月 ■ 今期 ■ 見通し



製造業

回答企業33企業

概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比3.0ポイント低下の0.0とやや低下したが、前回調査予想値(▲6.1)は上回る結果となった。項目別では、売上・受注で18.2ポイント低下の12.1、売上数量が18.2ポイント低下の12.1、利益でも24.2ポイント低下の▲12.1と全項目で悪化した。

価格転嫁による売上高の減少や、原材料および燃料費の高騰が続いていることから、利益の減少など総合的業況はやや悪化となった。

来期の見通し

～業況判断DI値 やや改善の見通し～

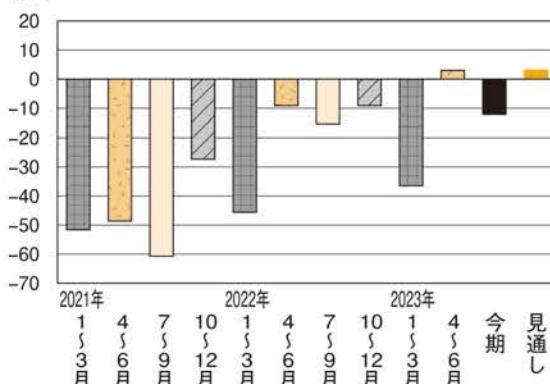


来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比12.1ポイント上昇の12.1とやや改善の見通しである。項目別では、売上・受注で0.0ポイントの12.1、売上数量が6.0ポイント低下の6.1、利益では15.1ポイント上昇の3.0とやや改善の見込みとなったが、売上数量はやや悪化となった。

業種にもよるが、季節的要因から業況の改善は見込めないが、原材料の高騰、人員不足などの問題もあり対応に苦慮している。

業況判断DI値の推移

D I ■ 1~3月 □ 4~6月 □ 7~9月 □ 10~12月 ■ 今期 ■ 見通し



分野別の状況

～総合的業況 横ばいで推移～

食料品製造業は、ねぶた祭りや各種イベントの開催から概ね売上増加となった。原材料価格高騰による商品価格改定から売上減少となった企業もあった。

印刷業では、紙印刷の売上の低迷が続いている。来年の年賀状印刷も厳しい見通しとなっている。

建設資材製造業は、受注は堅調に推移し資材高騰に対する価格転嫁も行われているが、人材不足傾向にある。

衣料・縫製業はスーツ等の需要が低下する時期により低調に推移。材料費高騰より利幅も減少傾向にある。

サービス業

回答企業42企業

概況

～業況判断DI値 横ばいで推移～



今期の業況判断DI値は、前回調査比横ばいの11.9、前回調査予想値(2.4)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で14.3ポイント低下の16.7、売上数量が9.5ポイント低下の14.3、利益では4.8ポイント上昇の16.7と総体では変化無かったものの、売上・数量はやや減少し、利益は増加となった。

宿泊業ではねぶた祭り等のイベントにより観光客増加により好調に推移した。

分野別の状況

～総合的業況は横ばいで推移～

各イベントがフルスペックでの開催の影響は大きく、前期に引き続き好調に推移。

ねぶた祭り等で観光客が増加し、旅館・ホテル業は宿泊が増加。ホテルでの宴会等も増加し、好調に推移した。

旅行業においても、団体・個人とも安定した集客があり好調に推移した。

自動車関連は車検・修理は堅調に推移したが、車輌の高性能化に伴い、技術の習得や人材不足が懸念されている。

来期の見通し

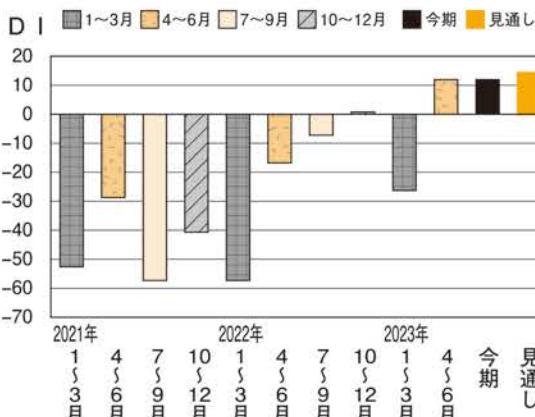
～業況判断DI値 横ばいの見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比2.4ポイント上昇の14.3の見通しである。項目別では、売上・受注で横ばいの16.7、売上数量も横ばいの14.3、利益では4.8ポイント低下の11.9と総体では横ばいの見通しとなった。

観光による団体・個人の集客が期待される。人流がコロナ禍前に戻りつつある事から、他業種でも回復基調を見込んでいる。

業況判断DI値の推移



運輸業

回答企業10企業

概況



～業況判断DI値 悪化となる～

今期の業況判断DI値は、前回調査比20.0ポイント低下の▲10.0と悪化し、前回調査予想値(30.0)を大幅に下回る結果となった。項目別では、売上・受注で20.0ポイント低下の0.0、売上数量が30.0ポイント低下の0.0、利益でも40.0ポイント低下の▲30.0と項目別では悪化となつた。

8月中旬までは好調であったが、以後低調に推移。燃料価格高騰が大きく影響し、収益の悪化を招いている。

分野別の状況

～総合的業況は悪化傾向～

旅客運送業は、各イベントや観光事業の好調から、売上確保できた。

貨物運送業は、りんごの運送が一段落することから売上高は減少。青果物については例年並みを確保。

一般区域貨物では、工事現場への資材搬入の受注減少から業況は悪化した。

各企業とも燃料価格高騰が利益を圧迫していることから、経費削減や効率化に向けた努力をしている。

来期の見通し

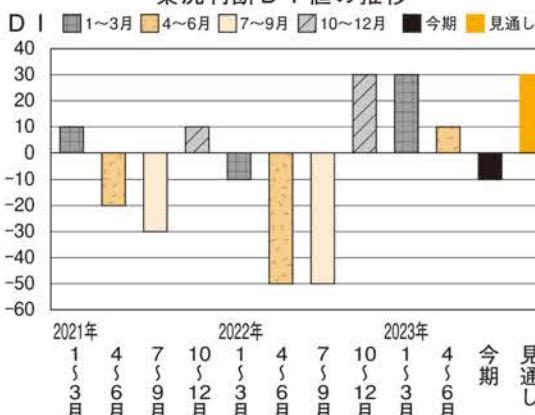
～業況判断DI値 改善の見通し～



来期の見通し業況判断DI値は、今回調査比40.0ポイント上昇の30.0と大幅改善の見通しである。項目別では、売上・受注で30.0ポイント上昇の30.0、売上数量が20.0ポイント上昇の20.0、利益では30.0ポイント上昇の0.0となつた。

りんごの運送が本格化するため売上は見込めるが、燃料費高騰は続く見込みであるため、各企業とも経費削減や効率化を主に利益確保に取組んでいる。

業況判断DI値の推移



飲食業

回答企業19企業

概況



～業況判断D I 値 やや改善で推移～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比15.8ポイント上昇の63.2と改善し、前回調査予想値(47.4)を上回る結果となった。項目別では、売上・受注で10.5ポイント上昇の68.4、売上数量が5.2ポイント上昇の68.4、利益では10.5ポイント低下の31.6と2項目で改善となったが、利益では減少となった。

食堂関連は夏場のイベントや高温が続いた事により外食需要の高まりから売上は増加したが、「材料費の高騰」、「光熱費の増加」により利益については横ばいに推移した。

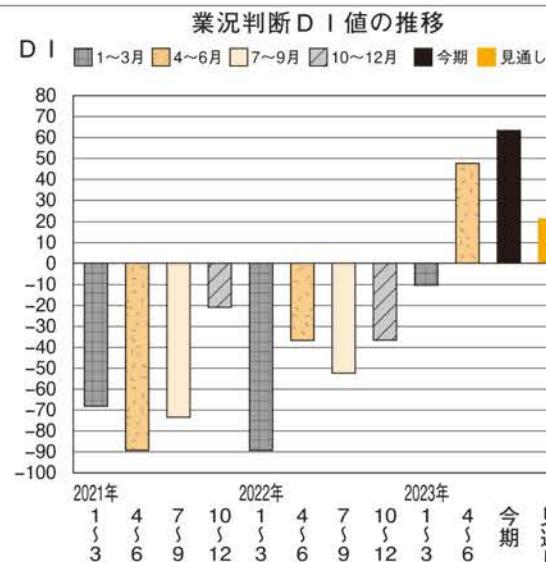
来期の見通し



～総合的業況判断では悪化の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比42.1ポイント低下の21.1と減少の見通しである。項目別では、売上・受注で52.6ポイント低下の15.8、売上数量が52.6ポイント低下の15.8、利益でも31.6ポイント低下の0.0と全項目で悪化の見込みとなった。

季節的要因からイベント等が少ないため大きな売上の増加は見込めない。年末の忘年会シーズン等期待もあるが、「材料費」、「光熱費」の高騰による経費の増加が懸念され、悪化の見通しとなった。



不動産業

回答企業9企業

概況



～業況判断D I 値 全項目で悪化～

今期の業況判断D I 値は、前回調査比33.3ポイント低下の▲11.1と悪化、前回調査予想値(22.2)を下回る結果となった。

項目別では、売上・受注で44.4ポイント低下の0.0、売上数量が55.5ポイント低下の▲11.1、利益では44.4ポイント低下の0.0と全項目で悪化となった。

今期は、建売住宅や土地の仲介が鈍く業者間の格差もあるが総じて低調に推移した。賃貸についても時節的な要因から低調に推移した事から、総じて業況は悪化した。

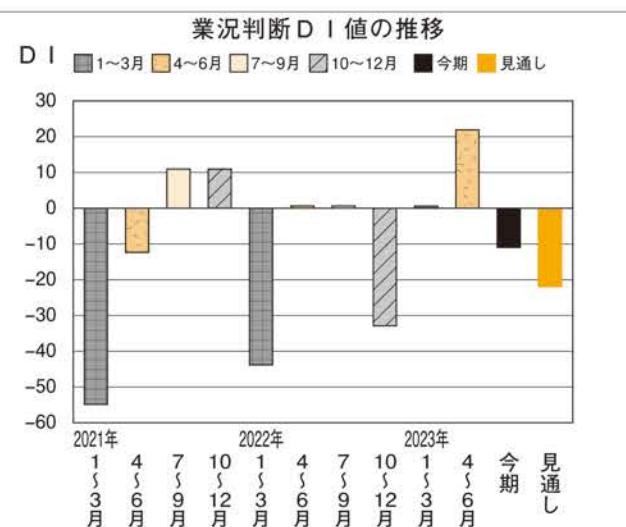
来期の見通し



～総合的業況 悪化の見通し～

来期の見通し業況判断D I 値は、今回調査比11.1ポイント低下の▲22.2の見通しである。項目別では売上・受注で11.1ポイント上昇の11.1、売上数量が33.3ポイント上昇の22.2、利益でも22.2ポイント上昇の22.2と全項目でやや悪化の見込みとなった。

新築物件の価格高騰により、中古物件の需要あるも供給足りていない様子。定年退職によるUターン者の問合せが多くなっているとの複数業者より回答があった。



調査要領

- 調査時期 2023年9月下旬
- 調査地域 当金庫営業区域7市町村(弘前市、黒石市、平川市、五所川原市、大鰐町、藤崎町、田舎館村)
- 調査方法 上記地域内291社から当金庫営業店の調査員による聞き取り調査。
- 分析方法 各質問事項で、変化なしとした回答部分を除いて、「増加(上昇)」「やや増加(やや上昇)」したとする回答と、「減少(下降)」「やや減少(やや下降)」したとする回答の構成比との差(判断D.I.)を中心に分析を行った。